

地域の「宝」を守るために

「子ども」は何よりかけがえのない、わたしたちみんなの宝。近年、全国で子どもを狙った事件が発生し、市内でも不審者による声かけ事案などが報告されています。そのような中、地域の人たちが立ち上がり、学校や行政と連携しながら地域ぐるみで子どもを守るうとする取り組みが進んでいます。ほんの少しでいいんです。それぞれの立場でできることを、今日から始めてみませんか。

—この春門崎小に入学した川崎花子ちゃん。図工が大好きで、もうすぐ開かれる初めての運動会をとても楽しみにしています。

花子ちゃんは毎朝、学校まで約2・1キロの道のりを、自分で選んだ茶色のランドセルを背負って元気に登校します。ランドセル

ルには学校から借りた防犯ブザー。知らない人から話しかけられたり車に乗せられそうになったら、ブザーを鳴らしなさいと教わりました。集団登校の集合場所まで600メートルはおいちやんが車で送ってくれ、それから同じ班の7人で歩いて学校に

向かいます。班長の涉君(5年)を先頭に、花子ちゃんは前から2番目。涉君のお母さんも毎朝一番後ろで歩きながら見守ってくれます。

帰りは週3回、低学年の4人で集団下校。友達と列れ1人になる場所には、おばあちゃんや車で迎えに来てくれます。

残り2回は全校集団下校の日。道路を渡る時は涉君が黄色い旗を掲げ、みんなが横に並び急いで渡ります。すぐ元の1列に戻って、朝よりは心なしかゆっく

りの速さで歩きます。ついつい道端の花や虫に目が行って、列が乱れることも。涉君に注意されてしまいました。

小学生を狙った凶悪犯罪が相次いだ平成18年。市内41の小学校では学校、PTA、地域、教育

委員会が連携して子どもを犯罪から守る取り組みが進められています。

門崎小学校(伊藤文男校長・児童95人)での実例を基に構成した上記。同小では子どもの安全を守るために、集団登校、集団下校、児童クラブでの児童の預かり、安全教室の実施、安全マップの作成など、さまざまな角度から取り組んでいます。

後を絶たない不審者出没

18年、一関警察署管内では8件、千厩警察署管内では14件、子どもに対する声かけ事案などの不審者情報が寄せられました。19年に入ってから数件発生しています。▽車に乗っていた男から、「乗らないか」と声をかけられた▽病院を聞くふりをして

女子児童に声をかけ、その子が近づくこと車内で下半身を露出するなど、いずれも無視したり逃げたりして事なきを得ましたが、このような事案が誘拐など重大な事件の前兆となる可能性もあり、十分な注意が必要です。

安全確保に指導員を配置

市教育委員会は、学校や警察、関係機関と連携し、「地域の子どもは地域で守る」を合言葉に、子どもの安全を守るための取り組みを進めています。

18年8月には、交通指導員や行政区長などの経験者5人を市地域学校安全指導員(スクールガード・リーダー)として委嘱しました。スクールガード・リーダーはオレンジ色のベストと帽子を身につけ、担当地域の小学



門崎小では週2回、地区ごとに班を編成し全校で集団下校を行っています。そのほか、遠距離通学児童や家で1人で留守番をする児童は学校前の「児童クラブ」で過ごし、家族の迎えを待つなど、さまざまな方策で“すきのない”安全な登下校が行われるよう地域が連携しています